

いぶき25号平成25年2月

世界の偉人たち「驚きの日本発見記」

第24回： ウィリアム・スミス・クラーク (1826～1886年)

「 "Boys, be ambitious!"

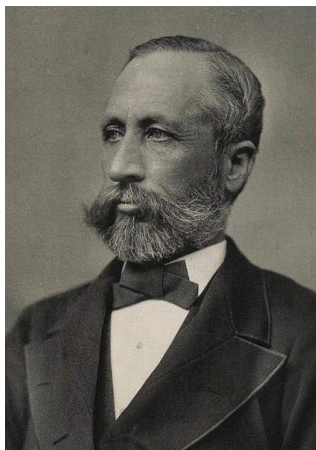
Be ambitious not for money or for selfish
aggrandizement, not for that evanescent thing
which men call fame

...Be ambitious for the attainment of all that
a man ought to be. 」

「 "青年よ、大志を抱け"

それは金銭や我欲のためにではなく
また人呼んで名声という空しいものの
ためであってはならない。

…人間として当然そなえていなければならぬ
あらゆることを成しとげるために
大志をもて。」



クラーク博士は、幕末から明治にかけて欧米の先進技術や学問を輸入するために雇用された、いわゆる「お雇い外国人」のひとりです。米国マサチューセッツ州で生まれ、ドイツのゲッティンゲン大学で「隕石の組成に関する研究」で博士号を取得後、米国アマースト大学教授になり、その後マサチューセッツ農科大学の第3代学長も勤めています。アマースト大学に留学した新島襄（同志社大学の創設者）の紹介により、1876年(明治9年)に札幌農業学校（現北海道大学）の初代教頭（事実上の学長）に就任し、8ヶ月札幌に滞在して自然科学一般を英語で教えました。上記の「Boys, be ambitious（青年よ、大志を抱け）・・・」は、札幌農学校第1期生との別れ

の際にクラーク博士が述べた言葉とされています。クラーク博士より直接指導を受けた第1期生により博士の精神は継承され、第2期生には、国連事務次長となった新渡戸稲造、平和主義者で思想家の内村鑑三、世界的な植物学者の宮部金吾など著名な人材が育っています。

教え主様は、平成21年2月度御教示にて「・・・夢を持つならばハッキリとした「目標」とその「方向性」を見定めてゆかねばならないのです・・・」とお示し下さいました。教育の崩壊が叫ばれる今、ハッキリとした「大志（目標）」を抱き、自ら方向を見定めて進んでいける青少年の育成が益々重要になってきています。〈M.I〉

（参考： <http://toyojie.jugem.jp/?eid=632>, <http://ja.wikipedia.org/wiki/ウィリアム・スミス・クラーク>）